

不定期・不定形発行

イデキュー NEWS

2025. 9. 17

NO. 1549

VOL. 38-26

25年目のボランティア

天然記念物のカキツバタを守る

名古屋で40度の気温を記録したり、愛知県の猛暑日数の記録更新を続けた酷暑の2025年。そんななか、9月4日～9月7日の4日間行われた天然記念物「小堤西池カキツバタ群落」の環境保全活動に、イデキューグループがボランティアとして参加しました。25年目（2009年は作業が2回あったため26回目）となります。今年で49年目の「カキツバタを守る会」（1976年5月発足）の歴史の半分を超えました。

2025. 9. 4～9. 7

しかし、ボランティアは午前中半日の作業。「守る会」の皆さんは午後の作業も4日間こなします。その活動が50年になろうとする皆さんのエネルギーと熱意には頭が下がります。

イデキューについて顧みれば、2001年（平成13年）、環境ISOの認証を取得した年、デンソーさんの「環境報告書」の巻末でこの保全活動のことを知り、

当時の刈谷第一SS（現セブンイレブン刈谷井ヶ谷町店）の近くであり、社内他部署にも呼びかけて、22名がボランティアに参加したのが皮切りでした。

一緒に作業した地元のお姉さま方から「イデキューさんは〇〇さんと違って、馬力があるわ。来年も頼むね。」と褒め殺し（？）にあったことが、今日までボランティアが続く端緒でした。

当初は社内の有志が自分たちの休みの時間を調整して参加していました。ISOの毎年の審査で審査員から「環境にいいことをしている

のだから宣伝したらどうですか。」と勧められていましたが、『陰徳でいいではないか』と無視していました。けれど地元の皆さんの

保護活動や自生するカキツバタの花の魅力を広く知らしめることは意義あることと考え、名刺や会社の封筒に「天然記念物『小堤西池のカキツバタ群落』の環境保全活動に協力しています」の文言を入れるようにしました。また、これまでのような有志のボランティアではなく、

会社のボランティアとして、体調の悪くない社員は、勤務時間を使って4日間の作業日のうち1日参加することとしました。

2011年のことです。10年目まで平均20人だった参加者が11年目に44人となっているのはそのためです。

さらに、イデキュー環境方針にカキツバタの自然環境保護を盛り込み、世の中の環境意識を高める目的でボランティアの数を増やす

ことを環境マネジメントプログラムの一つに加えました。こうして、仕事のお付き合いのある先から、少しずつ参加者が増えてきました。

これまで、出光さんはじめ多くの関係会社の皆さんを含め、この25年間ボランティアに参加した人は283名、作業にあたった延べ人数は1037名に及んでいます。単純平均で毎年41.5人がボランティアに汗を流したことになります。ちなみに、イデキューの現在の在籍社員の平均参加回数は、

今年初参加の3名を加えても、一人15回となっています。自然保護の「環境貢献」だけでなく、微力ながら、地元の皆さんの期待に応える「地域貢献」も果たしてきました。

SDGsは絶滅危惧種の保護も掲げていますが、小堤西池のカキツバタ群落は天然記念物であり、絶滅危惧種です。池の周辺の多様な動植物が生育する自然環境を守ることもつながる活動を、新しい皆さんの力も借り、微力ながらも、お手伝いしていきたいものです。

来年も 色鮮やかに さらに多くの花が 咲きますように



S

B

K

G

V